

先日、見通しのよい直線道路でこんなことがあった。道幅が狭くなっており、対向車のどちらかが広いスペースで待機していればスムーズにすれ違いができると思われるところを、お互いが「相手が止まるだろう」という思いを持っていたのか、どちらも停止することなく進んでいった。そして、案の定すれ違えず立ち往生となってしまった。幸い交通量の少ない場所だったので、後続車両もなく、一方が後退したこともあり事なきを得たが、お互いが譲り合いの気持ちを持っていればと思わせるシーンであった。

車の運転はその人の良くない部分が出がちであると聞いたことがある。もし、前述のシーンでどちらかの運転手が急いでいるとかイライラしているといった、いつもと違う心理状態だった場合、何かしらのトラブルに発展していたかもしれない。

他人事ではない。自分が運転している時を振り返ってみても、特に急いでいるときは、相手が譲ってく

譲り合いの気持ち

れることを期待してしまうことがある。車の中にいると表情は見えにくい。しかし、行き交うのは人対人であることを意識しながら運転したいと思う。

車の運転時だけでなく、日常生活の中で無用なトラブルを起こさないようにするためにも、自己中心的な考えでなく、今一度、相手のことを思いやる気持ちを持つことを心掛けたいものであると再認識させられた出来事だった。



*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569